

スマイルトレゲーム@福岡

11月23日福岡県で実施されたあすばる男女共同参画フォーラム2019のイベントとして、スマイルトレゲームを実施し、すどろくを通してケニアで行なっている「スマイルトレプロジェクト」を体験していただきました。



World Urban Forum10に出展します！

2020年2月8日～13日にアラブ首長国連邦のアブダビで開催されるWorld Urban Forum10に日本ハビタット協会のブースを出展します。展示ブースにおいて、ケニアで実施している住民主体のトイレ建設事業「スマイルトレプロジェクト」のパネル展示や動画放映等を行い、ハビタットが目指す持続可能なまちづくりを広報します。また、サイドイベントでは、スマイルトレすどろくゲームも行い、住民主体の事業の重要性について理解を深める予定です。

詳しい情報は、こちらのサイトをご覧ください。
<https://wuf.unhabitat.org/>



ハビタットクイズ？！

コインやお札にはその国の動物、植物、歴史上の人物などの特徴が描かれているよ！
その中でも、認識しやすい肖像画は偽札防止に多くの国で取り入れられているよ。
紙幣やコインに肖像画が描かれている人物の国名を当ててみよう！

① ブミボン国王
()

② ネルソン・マンデラ
()

③ ムスタファ・ケマル・アタトゥルク
()

④ チェ・ゲバラ
()

⑤ ジョモ・ケニヤッタ
()

国名は下の5つから選んでね
南アフリカ／キューバ
トルコ／ケニア／タイ

ご協力いただきありがとうございます

2019年6月5日～10月31日
(敬称略・順不同)

みなさまのご支援ご協力により、多くの国と地域において、まちづくり事業を実施することができています。心から感謝申し上げます。

会費 (株) エッチアールディ、日亜化学工業(株)、SI-柳川、遠見幸蔵、小林一、秋本敏文、宮田秀子、一柳徳江、原雄次郎、安藤久美子、田村哲夫、藤本貴也、柳瀬ユミ、水上美佐子、宮本知枝、山村より子、六波羅昭、笠留美子、松井昌子、木下ハツ子、内田俊隆

ご寄附 SI 熊本一わかば・熊本一さくら・八代・長崎ガーランド・佐賀一東部・北九州一南・福岡・やよい・杵岐、三菱商事(株)、(株)北原旅館こうろ、ほりお歯科医院、堂島喫茶 SUI、世田谷清掃局、鈴木ダンススクール、岡田耕造、篠原大作、原田義信、佐々木節子、増井俊樹、池端直亮、原雄次郎、久保政彦、田村哲夫、三浦教子、瀬戸美都子、久山純弘、坂本春生、母袋秀典、藤村美保、大塚俊之、六波羅昭、小方辰子、笠留美子、江幡真喜子、勝又宏幸、中村勇、中井禮子、内田俊隆、藤岡美千代、錦織保、兼平剛志、関口芳夫、塩川秀敏、田野井弥生、宮田秀子、清水靖久、富成裕一、樋口謙一郎、内田俊貴、遠見幸蔵、(有)岩田時計店、東京共済病院、成田国際空港(株)、東京国際ターミナル(株)、関西国際空港(株)、福岡空港ビルディング(株)、新千歳空港ターミナルビルディング(株)

切手・書き損じハガキ等 (株) ジェーシービー

ご協力いただいた方及び団体 国連ハビタット福岡本部、国連ハビタット福岡本部協力委員会、福岡県、東京福岡県人会、千代田区社会福祉協議会、ちよだボランティアセンター、国際協力機構(JICA)、地球環境基金、ソフトバンクモバイル、シャンドウミュージエ、せんだい農業園芸センターみどりの社、(株)エッチアールディ、(株)新橋スタンプ商会、(株)電通、東洋アルミニウム(株)、ニューサンノー、半蔵門駅前郵便局、トラベルクリエイターズ、(社)日本フィランソロピー協会、(一財)シルクセンター国際貿易観光会館、ハビタット福岡市民の会、こどもの夢ネットワーク、アジアの女性と子どもネットワーク、(特非)SOS子どもの村JAPAN、ヤマダ会、森下歯科医院、中嶋健治、樋口謙一郎、今井杏奈、齋藤謙、樋見次、花島光男、塚越勝美、長谷川隆徳、小泉邦夫、白浜靖彦、平良サキ子、佐藤昭二、丹波佐和子、加藤弘子、藤村美保、小野雅恵、林富子、堤優子、小方辰子、山際則子、菊地澄子、小家進、野崎美知子、吉野和子、大島政子、岡部晃子、三島康雄、佐藤和恵、藤岡美千代、錦織保、中村麻子、宮本知枝、ハビタットフレンズの皆様

大阪マラソンにご寄付、ご協力いただいた方及び団体 東洋アルミニウム(株)、(株)エッチアールディ、(株)JALUX、ほりお歯科医院、堂島喫茶 SUI、南平台整骨院、チャリティランナーの皆様(上山佳彦、太田祥歌、片寄五月、清水雄二、石原雅也、Somphong Khammalavong、森崎脩、安部庸平、喜内尚彦、種池健太、村上優太郎、船曳妙子、川崎浩一、竹中完和、岩本奈央、池田幸雄、三木大輔、藤野剛明、関睦、梶田勝史)、丹波佐和子、香山秀子、遠見幸蔵、矢作美和、小方辰子、Phonevilay Soukhy、太田敏子、佐藤美華、川上洋二、クラウドファンディングにご協力いただいた139名の皆様

コインわけにご協力いただいた企業・学校 (株)ジェーシービー、ザ・ボディショップ、(株)電通、シトリックス・システムズ・ジャパン(株)、(株)ピクニックルーム、Kosha33

募金箱設置にご協力いただいた企業等 成田国際空港(株)、東京国際空港ターミナル(株)、新千歳空港ターミナルビルディング(株)、中部国際空港(株)、関西国際空港(株)、福岡空港ビルディング(株)、博多港開発・西部ガス共同事業体、長崎空港ビルディング(株)、熊本空港ビルディング(株)、那覇空港ビルディング(株)、逗子市交流センター、(有)岩田時計店、珈琲店ストーンズ、AOKI、ホルモン劇場 den

2020年1月発行

発行：認定NPO法人日本ハビタット協会（発行責任 篠原大作／編集責任 山本博子）

〒102-0092 東京都千代田区隼町 2-12 藤和半蔵門コープ 103 号 TEL／FAX：03-3512-0355
E-mail：info@habitat.or.jp／URL：https://www.habitat.or.jp

2020年1月発行



JAPAN HABITAT ASSOCIATION

HABITAT 日本ハビタット協会
まちづくり通信 No. 36

日本ハビタット協会は、国連ハビタットと共に世界中の人々が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進しています

災害に備える常日頃のつながり

2019年9月、台風15号が千葉県を中心に甚大な被害を出し、翌月には台風19号による広範囲にわたる記録的な豪雨災害が甚大な被害をもたらしました。被害に遭われた方々に、あらためて心よりお見舞い申し上げます。日本ハビタット協会は、社会福祉協議会、男女共同参画センター等と協力して、女性と子どもに焦点をあてた支援活動を進めています。

2011年の東日本大震災以降、国内では予測できない災害が頻発するようになりました。そうした災害に対応していくためには、常日頃からの備えはもちろんのこと、人と人、住民と地域とのつながりがとても大切となります。自分の住んでいる地域の情報を収集するだけでなく、地域の集まりやボランティア活動にも積極的に参加していくことが、いざという時の確かな力になります。いつ起きるか分からない災害に備え、ご自身のコミュニティの中でのつながりを常日頃から重要視することが大切です。

また、被災者の生活再建への道のりは、長く険しいものとなります。日本ハビタット協会は、東日本大震災復興支援事業の復興の桑プロジェクトから誕生した宮城県産桑の葉パウダー入りチョコ「KUWA CHOCO」の売上を、国内外の災害復興支援に役立てております。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

活動の写真：右上…コミュニティ再生活動 右中…疲弊した経済の活性化
右下…KUWA CHOCO販売イベント



災害時に重要なジェンダーの視点

マリ クリスティーン



昨年は首都圏に大型の台風が上陸し、各地に大きな被害をもたらしました。様々な報道の中で、自閉症の子どもがいるために、避難勧告が発令されても避難所に行くことができない母親の記事を読みました。日ごろの暮らしと違う避難所などではパニックを起こしてしまい、周りの人に迷惑がかかる等の懸念から、夫とほかの子どもたちは避難所に行ったけど自分と障がいの子は残ったとのこと。幸いにもこの女性も家族も無事でしたが、女性たちがケアギバーとして様々な苦勞を強いられているということを改めて痛感しました。

スマトラ沖地震でも、阪神淡路大震災や、東日本大震災でも女性の死者が男性よりかなり多かったというデータがあります。か弱いから逃げ遅れたというより、家族の世話や、介護などを優先させるために避難できないことが原因になってしまうのです。国によっては夫や男性家族の同伴なしには避難場所への移動ができないとか、水泳や木登りなどは男子だけが教えられていて、身を守る行動がとれないことや、着ているものが動きにくいものであるなどのジェンダー規範がその原因になることもあります。また、災害時には避難所などで女性への暴力が起きるということも事実です。

これらのことを防ぐためには、平常時から暴力を許さない社会づくりを行い、社会の意思決定の場に女性を起用し、ジェンダー平等の視点が当たり前の世の中を作り出していく事が大切であると思います。

日本 & ラオス 大阪マラソン・子どもの生活環境改善事業



ランナー全員、
元気に完走できました。
ご声援ありがとう
ございました！

大阪マラソンを通したラオスの子どもたちの生活環境改善事業への
あたたかいご支援、ご協力ありがとうございました！

12月1日に行われた第9回大阪マラソンでは、ラオスから来日した
Somphong先生を含む20名のチャリティランナーが走り、みなさまの応
援のおかげで無事完走することができました。沿道では、ラオスの学生
たちが作った横断幕を掲げ、当協会のスタッフ、ボランティアさんが一
丸となって声援を送りました。大阪マラソンを通して当協会から寄せら
れたご寄付は、教科書プロジェクトに活用させていただいた他、12月か
ら開始した1日3食プロジェクトに大切に活用させていただいています。



Somphong先生からのメッセージ

今回大阪マラソンに私自身が参加し、そしてラオスの人々が関われる機会を作ってくれた日本の皆様に
心より感謝の気持ちを伝えたいと思います。私にとって、日本に行くのも、マラソンに参加するのも今回が初
めてのことでした。ラオスでも、学生たちや大学の教員、事業で支援した学校の皆さんが、私や日本ハビタ
ット協会のチャリティランナーを一生懸命応援してくれていました。こうして日本の皆さんと一緒に大阪マラ
ソンをやり遂げた経験は、私をはじめ、関わったラオスの人にとって心に残ると思います。

また、今回のチャリティを通して、さらに多くのラオスの子どもたちに教科書や給食を届けられることをと
ても嬉しく思います。ラオスの農村部では、まだまだ子どもたちが勉強をする環境が十分に行き届いていな
いところがたくさんあります。大阪マラソンに参加したことで、多くの日本の皆さんに、ラオスのことを伝え、
また日頃の感謝を伝えられたことをとても嬉しく思います。実際に触れた日本の皆さんの思いを、次は私が、
ラオスの人たちにも届けられるよう今後も頑張って活動に取り組んでいきたいと思っています。ぜひ事業がどの
ように進展していくのかを、今後も見守っていただけると嬉しいです。

またお会いできる日を楽しみにしています！ぜひラオスにも遊びに来てください。



ラオス 教科書プロジェクト

今年はチョンペット地区の小学校32校にラオス語の教科書を1000冊届けることができました。チョンペット地区には、ラオス語を母
語としないグループが多く暮らしています。経済的に苦しい家庭も多く、小学校で十分に勉強することのできなかつた人もたくさん暮ら
しています。地区の教育局や教員は、そうした15歳～40歳の村人のため、週に2回ほど授業を行い、ラオス語の読み書きを勉強していま
す。今回届けた教科書は、子どもたちだけでなく、こうした村人の学習にも活用されます。また、村人の学習を支援するために、教科書や
ペンといった文房具600セットも届けました。

教科書があると、
学習意欲もUP!
自信がついてきたよ。



教科書や文房具が
あれば、創造力も
増して元気一杯！



ケニア トイレができれば、みんなが笑顔に

清潔なトイレは、貧困の削減、健康、教育機会の提供、女性の社会参画につ
ながる「まちづくりの特効薬」であるとの考えから、ケニア西部ホームベイ県に
て住民主導のトイレ建設事業「スマイルトイレプロジェクト」を進めています。

2018年度の事業対象だった5つの村では、住民達はさまざまな困難を乗り
越えながら自分の家にトイレを建設しました。ある村人は、沼地にトイレを設
置してしまったため、コンクリートの床が沈んでしまいました。また、ある村人
は、道路脇にトイレを設置したら、道路拡張工事で取り壊されてしまいました。
そのような経験をしながら、トイレの普及率がほぼ100%達成できました。

2019年8月からは、JICA草の根技術協力事業として新たにスタートし、現在
10村でトイレ建設が進んでいます。各家庭に清潔なトイレと手洗い場が建設
されていくのが楽しみです。

事業対象の5村で、
トイレの普及率が
ほぼ **100% 達成!**



ケニア Global Handwashing Day 2019

～ 世界手洗いの日～



手洗いは、手に付着した病原菌や雑菌を洗い流し、感染症を防ぐ上で大変
重要です。手洗いの重要性と普及を目指し毎年10月15日に「Global Hand-
washing Day」が開催されています。

日本ハビタット協会もホームベイ県カボンド地区のOber Mixed Primary
Schoolにて手洗いキャンペーンを開催しました。学校の生徒や先生、近くの住
民や保健省職員などが参加しました。

手洗いの重要性を実感してもらうため、簡易の手洗い場を仮設し、約90人の
生徒と110人の住民が石鹸を使った手洗いを体験しました。簡易の手洗い場
は、使い終わった食用油や洗剤の空きタンクと周辺にある木材、紐を利用した
もので、誰でもすぐに設置できるものです。生徒や住民達に対し、実際自分た
ちの家で作れるよう、簡易の手洗い場の設置方法も指導しました。各家庭で手
洗いが広がれば、感染症の減少だけでなく、それに伴う貧困改善や子どもの教
育環境改善につながると期待されます。



トイレができれば、
様々な問題の改善に
つながります！



ケニア World Toilet Day 2019

～ 世界トイレの日～

トイレを中心とした衛生環境の改善は、今世界が取り組むべき課題となっ
ています。トイレがないと、下痢やコレラ等の感染症にかかるリスクが高まり、生
命の危険につながります。また、治療費もかかるため、貧困が進みます。さら
に、女性の社会参画を考える上でも、トイレはとても重要な要素となります。

国連により11月19日は「世界トイレの日」に制定されています。それに合
わせて啓発イベントを開催しました。多くの村人に参加してもらうため、音楽を
かけたり、お茶を楽しんだりとお祭りのような賑わいで、ケニアらしい楽しいイ
ベントとなりました。イベントを通して、トイレの重要性を広報しながら、スマ
イルトイレプロジェクトへの参加を呼びかけました。

